

# I-1:研究広報

開催日時・会場 9月15日(水曜日) 9:00-10:30 WEB-ONLY

## 顧客志向でハートをつかめ！誰でもできる「身近」な広報

研究、教育、イノベーション、地域やSDGsへの貢献。大学の役割は多岐に渡るが、こうした活動を発信して大学の魅力を伝え、認知度向上につなげていくのは、広報の仕事と捉えられている。大学のブランド力や認知度の向上が優秀な人材の獲得や、企業および慈善家との関係構築にとって重要であることが理解され、大学における広報の重要性はかつてないほど認識されている。

一方で、広報官が、プレスリリースやメディアリレーションズ、一般向けイベント開催や広報誌の発行、ウェブサイトやSNSなどを通じて情報発信を積極的かつ効果的に行えさえすれば、優秀な人材獲得や卓越した研究成果の創出、企業や慈善家からの投資や寄付に繋がるような、大学のイメージや知名度の向上を底上げできるのだろうか？

イメージや知名度の向上とは、ファンを増やしていくことだと言える。一人でも多くのファンを作っていくために、最も効果的な「広報」はなんだろうか？人は、どんな時に対象に好意や憧れを持つのか？

本セッションでは、創立10周年を迎えたまだ新しい小規模地方大学である沖縄科学技術大学院大学（OIST）で、広報以外の部署で働く事務職員が学内外の研究者や、国内外の大学学部生等に対し心づくしのサービスを提供する、いわゆる「顧客志向」でファンを獲得することで、広報活動と本質的につながる例を紹介する。全教職員が広報官であるという意識について参加者と議論したい。

## オーガナイザー

姚 馨：沖縄科学技術大学院大学・外部研究資金セクション・  
リサーチ・アドミニストレーター

NO  
PHOTO  
AVAILABLE

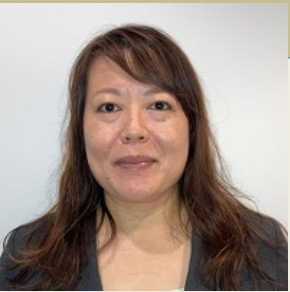
お茶の水女子大学人間創成文化科学専攻 博士（人文科学）。瀋陽工業大学助教、コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ日本校マネージャー、大阪大学特任講師等を経て、2021年3月より沖縄科学技術大学院大学に着任。約8年間、URAとして外部資金の獲得、研究成果の国際的発信、大学の研究力強化及び経営等の支援に幅広く携わる。

## 講演者



**大久保 知美: 沖縄科学技術大学院大学・メディア連携セクション・マネジャー**

パリ第1パンテオン・ソルボンヌ大学及びパリ・ドーフィン大学においてMBA取得。外務省（東京）、NGO（カナダ）等で広報に携わる。中国系PR会社（中国北京）にて顧客担当及びPRプランナーを担当した後、地元の長野でライフスタイル系雑誌の編集を経験し、沖縄に移住して現職。科学技術の話題を一般に伝えるサイエンス・コミュニケーションの世界と出会い、主にメディアリレーションズを通じて科学の意義や魅力を伝えることに尽力。



**東恩納 こずえ: 沖縄科学技術大学院大学・学生支援セクション・シニアマネジャー**

カルフォルニア大学サンディエゴ校経営科学科卒業。Nippon Express USAにて会計職員、学習塾TESアカデミーにて校長兼講師の経験を経て、2010年より独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構総務課、2011年よりOIST学生支援セクション職員として学生募集、入試、生活支援を担当。現在、学生支援セクションのシニアマネジャーを務める。



**ガスマン 勇氣: 沖縄科学技術大学院大学・学外エンゲージメントセクション・アシスタントマネジャー**

南米チリ生まれ。好物はスイカ。幼少期を日本、チリ、韓国で過ごし、その後米国インディアナ州のValparaiso Universityへ留学。学部にて国際関係を専攻し、修士では教育学を学ぶ。2015年よりOISTに入校し、主に国内外の学生を対象に博士課程の広報活動や科学アウトリーチ活動を行なっている。現在は研究科の学外エンゲージメント・セクションにてアシスタント・マネージャーとして勤めている。



**マネヴァ・ヤナ: 沖縄科学技術大学院大学・カンファレンス・ワークショップ・セクション・アシスタントマネジャー**

ベルリン・フンボルト大学文学部アジア・アフリカ学科日本語・日本文化研究科卒業。在学中に毎日新聞ベルリン支局特派員アシスタント。フンボルト大学交換留学制度で東海大学へ留学。ベルリン自由大学大学院日本学科修士号課程を就職のため中退し日本へ。民間企業で国際技術業務を担当。2013年よりOIST准副学長（広報担当）アシスタント兼カンファレンス・ワークショップ・セクションスタッフ。2021年より同セクションのアシスタントマネージャー。



**杉原 忠: 沖縄科学技術大学院大学・外部研究資金セクション・マネジャー**

東北大学理学部物理第二学科卒業。九州工業大学大学院情報科学専攻 博士（情報工学）。理化学研究所脳科学総合研究センター、米国ジョージ・ホプキンス大学、ロチェスター大学などでシステム神経科学、認知脳科学研究者として従事。2012年より京都大学学術研究支援室URA。2014年よりシニアURA、副室長。2017年よりOIST外部研究資金セクションマネジャー。NCURA 2020 Chair of Region VIII (International Region)。